

宮城県における「防災教育推進フォーラム」の開催について

平成21年3月24日（火）に宮城県仙台市で「防災教育推進フォーラム」が開催されました。フォーラムには約180人が出席され、「生まれ変わる防災教育～2008年岩手・宮城内陸沖地震の教訓を踏まえて～」をテーマに「再来が予想される宮城県沖地震に備えて地域と学校で地震を学び「防災力」を高めるには何が必要か？」について熱心な討議が行われました。

1. 基調講演要旨

「生まれ変わる防災教育～2008年岩手・宮城内陸沖地震の教訓を踏まえて～」
今村 文彦 東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター 教授

- ・人間が持つ偏見や限られた知識を拡大し正しくするには、「唯一学ぶ」と「生涯学ぶ」ことのみが対応できる。
- ・特に防災に対する学びとは単なる知識習得ではなく、「生きること」・「生き延びること」・「一緒に生きること」・「これらを学ぶこと」の4つである。
- ・更に防災教育に於いては「驚き」・「納得」・「気付き」・「思いやり」の4つが重要不可欠である。
- ・2008年にみやぎ防災教育基本指針が作成された。宮城県の防災教育は大きく変わる。生涯に渡って防災に詳しい知識を持てる社会人育成をも目指している。
- ・学校単独で出来ることには限界があり、地域との連携や地域と学校の協働が試される時代である。
- ・「いつかやれば何とかなる」との考えは防災にはタブーで被害の元になる。「やれることは今直ぐにやる」の発想が重要である。

2. パネルディスカッション要旨

「高めよう！ 地域と学校で防災力」

NPO法人防災情報機構会長伊藤 和明氏（元NHK解説委員）のコーディネートのもと、各パネリストから夫々の分野での活動状況の説明があった後、テーマを「地域と学校で地震を学ぶ」及び「防災教育は地域防災力向上をもたらすか？」に二分して議論を行った。

【地域と学校で地震を学ぶ】

- ・切迫している宮城県沖地震の再来に向けて、学校教育や一般の方々に対する普及啓発を教育の中でどのように活かし、地域の防災とどのような関わりを持つかが問われている。
- ・みやぎ防災教育基本指針が出来たが、地域にあわせた教材の開発とか、学校の中での指導者養成、更には学校と地域の連携が今後の課題である。

【防災教育は地域防災力向上をもたらすか？】

- ・防災にアニバーサリーを大切にして、発展系でオリジナルな活動（例：サバ飯コンテスト）を展開することが大事である。
- ・また防災は自らを守る「自助」からスタートして、学校で学んだことの発展段階に応じて周りの地域とどのように連携するかの「共助」が基本で、しかも半分は「楽しくやる」ことが大事である。

3. 質疑応答

- ・「高齢化の進展に伴い大災害時の自助共助段階での人手不足問題が気になる中で、大学生や高校生への期待が大きいが、学校側の協調はどんなものか？」との問いに「今回の県の指針では、防災の重要な戦力として活動できる知識・技術を身につけるという目標を設定している」宮城県教育庁から説明があった。
- ・釜石市出身者から、津波のメカニズムについての質問があり、今村先生から説明があった。
- ・更に緊急地震速報システムに就いての質問があり、仙台管区気象台から詳細なご説明を頂きました。